

会 議 録

平成 24 年 4 月 16 日調製

審議会等名	平成 23 年度 第 3 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 24 年 3 月 27 日（火） 午後 2 時～午後 3 時半
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	宮島泉委員長 捧礼子副委員長 小林修委員 渡邊英美委員 本井晴信委員 名島ルイ委員 小出和子委員 説明のための職員 鶴巻生涯学習課長補佐 長谷川文化振興係長 指定管理者 太向館長 本間副館長 菊埼業務責任者 佐藤副責任者 瀧澤副責任者 竹内副責任者 村山副責任者
協議題	(1) 平成 23 年度 2 月までの図書館利用状況について (2) 平成 24 年度の事業計画について (3) その他
生涯学習課長 補佐	あいさつ
宮島委員長	それでは協議題に入る。(1)平成 23 年度 2 月までの図書館利用状況について説明をお願いしたい。
図書館長	(資料 No.1 に基づき説明)
宮島委員長	説明いただいた図書館の利用状況と事業報告等について、ご意見・ご質問などをお願いしたい。
本井委員	「あきジィのおはなしドーン」を倉品章先生が始められたのは、大変恵まれていると思う。参加人数が少なくても、ぜひ継続していただくようお願いしたい。そういう意欲のある先生はまだいらっしゃると思うし、今から目星を付けて、ぜひ三条から去らないようにしていただきたい。
図書館長	男性で読み聞かせをしてくださる方は少なく、同じ話でも味わいが違う、子どもの反応が違う。私どもとしても大変貴重で、ありがたいと思っている。
本井委員	夏休みの「調べる学習講座」の中身について、図書館側で具体的な想定を幾つかされたと思うが、どうか。
瀧澤副責任者	内容は、子どもたちにまず図書の分類、「本がどのように並んでいるか」という説明をしてから、子どもたちが日ごろ疑問に思っていることを挙げてもらい、「その本はどこにあるかな」ということで一緒に探したり、次には子どもたち自身が疑問に思うことについての本を棚に探しにいったり調べたり、というように、図書館の本をどうやって使えば調べ物ができるか、という講座にした。
宮島委員長	「図書館ほっと映写会」を毎月第 2 土曜日にやっているのは知っていたが、映写ボランティアによる行事だというのは、今回初めてわかった。
図書館長	一般の方向けの映画鑑賞会で、もちろんお子さんも来ていただけるが、視聴覚ライ

	ブラリーの職員さんがボランティアとしてフィルムをご用意くださり、図書館にある映写機を使って、毎月映写してくださっている。直営時代からの行事である。
宮島委員長	長く続いている。これを毎月楽しみに来ている方が、私の担当している読み聞かせの時間にもいらっしゃる。
図書館長	図書館にもフィルムを扱う資格を持っているスタッフはいるので、ボランティアに甘えるだけでなく、自分たちでもできるようにしたい。長く続けていきたい。
宮島委員長	利用状況について、小林委員さんはどうか。
小林委員	今年の冬は雪が多かったので、少し出足が鈍かった、しかし下田分館は増えた、という話があった。気候に左右されるものなので、現状では承認できる範囲だと思うし、4年やってきてこれを維持していることのほうがすごいと思う。2年目ぐらいまではもつが、3年目になると急激に後退するということが多いので、皆さん頑張ってくださいっていていいと思う。栄分館の2月がかなり落ちているのは、雪のせいだろう。私は栄庁舎にしばしば行くが、今年はやはり雪が多くて大変だった。春に向かってまた利用は増えると思うので、そう気にしないでいい数字ではないかと思う。いろいろな事業をやっていただいてありがたいと思っている。
宮島委員長	冬の雪に関しては、駐車場の除雪がなかなか追いつかず、遠慮して来られない方も確かにいたようだが、これは仕方のないことでもある。
図書館長	申しわけない。もちろん毎日朝から、午前中できる限り除雪をしたのだが、何分今年は量が多く、限られた人数の中で、どうしてもやり切れない部分があった。青少年育成センターさんと一緒に、除雪車に来ていただくようお願いもしたのだが、今年は大きな車両が2度来てくれて、センター側には入れたが、図書館の向かいの駐車場には入れなかった。これだけの豪雪になると除雪車も引っ張りだこのので、来ていただくのはなかなか大変だし、そのようなこともあったので、どのようにすればベストの手配ができるのか、また来年に向けて備えたいと思っている。
宮島委員長	ご苦労さまだった。
小林委員	<p>今日この会議のために図書館に来たら、展示ホールで子どもの絵の2つの教室の展示会をやっていて、私の学校の子どもの名前も6・7人見つけた。いつもいろいろなものをやってくれているし、催し物で釣るというのは言い方が変だが、そういう子ども中心の催しをやって利用者を増やすと大きいかなと思う。マンネリ化しているようではあるが、市の小中書道展や美術展があると、どこもたくさんの方が入っている。名島委員さんもおっしゃっていたが、諸橋轍次記念館の書道展に今年度から応募してくれと館長さんが言うので、裏館小でも先生方を通して子どもたちに伝えたら、けっこうな数応募してくれた。何かちょっとしたきっかけで広がっていくものだと思う。前校長先生(倉品章氏)を私もすごいと思うが、やはり「子ども中心」が起爆剤になり、親も付いてくると思うので、本館でも栄分館でも下田分館でも、何か子どもを出すことを行えるとよい。親御さんは必ず付いてくる。</p> <p>昨年も話した気がするが、裏館小の学区は三条小と接しているとはいえ、少し距離がある。上林小の学区はなおさら。一昨年度の協議会の際、終わって1階に下りていたら、上林や裏館から来ている子が何人かいた。図書館は三条小が近いのでその</p>

	子どもが使っているのだろうと何となく思っていたが、いつ来てもうちの子の誰かを必ず見つけて、「おお」と声をかけている。本を読んでいるのではなくヘッドホンをかけてDVDを観ている子もいる。そのようにいろいろな活用をさせてもらっていると思うので、そういう子どもを通した形でいいのだと思う。
図書館長	前回も小林委員さんから、きっかけづくりとか、お尻を押すことが大事だというご意見をいただいた。いろいろ選択肢を用意することが大切だと思う。
小林委員	今日来たら、「本の展示コーナーを設けました」というPRが入口付近に出ていたが、やはりそのようにしていくと、話題性が出て、行ってみたいというようになる。いろいろな人が利用するには、そういう企画展的なものもやるといいかもしれない。
捧副委員長	小林委員さんがおっしゃった絵画教室の展示に、うちの子も出している。そうすると、普段行かないおばあちゃんも連れて、じゃあ図書館に見にいってみようか、とやはりなるので、絵画教室に貸し出すということだけでなく、図書館で「本の絵を描いてみよう」「本の内容をテーマにして何か想像して描いてみよう」といった企画をやり、館長賞とかを出すと、お子さんや家族の方にも本を読んでもらえるし、一石二鳥かなと思った。
本井委員	三条市の教育委員会としても、そういう子どもたちの夏休み作品展だとか、毎年何か催しをされているのか。
生涯学習課長 補佐	正式な名称ははっきりしないが、夏休みの1人1研究的な科学発表会や、ふるさと絵画というのをやっている。
渡邊委員	「ふるさと絵画コンクール」は、24年度に30周年になる。実は主催が三条市の小中学校のPTA連合会で、市に共催をお願いしている事業である。小・中の最優秀賞と特別賞があり、それが市役所の庁舎に何ヵ月か飾られる。来年度は30周年なので、それを図書館にも展示させてもらいたいかなと思った。あるいは、まだ具体的にはなっていないのだが、新年度行事として、歴代の方で今現在も絵に携わっている、あるいは仕事をされている方を探し出しているところで、そういう方の作品もお借りできればいいと思っている。その関係で、ちょっとお手伝い願うことがあるかと思うが、一緒に何かできたらいいなと思う。
図書館長	時期の調整や、規模のご相談が必要かと思うが、可能であればご一緒させていただければと思う。
渡邊委員	23年度の応募総数が1,200点あったので、24年度は多分、もう少し増えるのではないかなと思っている。
宮島委員長	先ほど話に出た科学発表の作品なども、レポート等の展示会として、子どもたちの目によく触れられる形で展示すれば面白いかなと思う。
図書館長	科学発表には図書館はこれまでまったく関わりがないので、勉強させていただき、可能ならぜひ関わっていきたいと思う。
宮島委員長	調べ学習にもつながっていく。
小林委員	今は子どもも教師もみんなパワーポイントで作ってしまい、昔のように模造紙で何枚か貼って、というのはなくなっているので、難しいとは思う。また、図書館との関わりがもっと強いものに、子どもの読書感想文もある。課題図書というのが毎年決め

	<p>られ、私は小学校の役員をやらせてもらっているが、よくできた作品は県でも全国でも、毎年優秀賞を集めて冊子を作っている。とても素晴らしい感想文ばかりで、それらを図書館に入れてもらおうといい。薄いものだが、学校だけではなかなか広がらないし、校長会で何度お願いしても響かない。読書や感想文、読み聞かせを通して、自分だけの知識を追う子どもをつくるのではなく、調べ学習も通しながら、自分で考えていく力を育てたり、将来困ったときに解決できる力を育てていく。その一番のものがきくと読書だろうと思うので、図書館もこの活動を推進していったほうがいいと、いろいろな会議に出れば出るほど強く感じている。私もできる限りあちこちで言おうと思っている。</p>
渡邊委員	<p>今お話を聞いていて思ったのだが、中学生は読書離れと言われている。私は自分の子どもの中学校しか知らないけれど、図書委員さんが何ヵ月かに1度、お勧め本というを出している。参観日などに行くと、図書委員でなくても、学年で廊下に貼って、お勧め本を友だちに紹介している。そういうのは多分各学校でやっていて、特別なことではないと思うので、そういうものの中から一つお借りして、図書館便りとかに「中学校 さんのお勧め」と載せることはできないのかなと思う。そうすると図書館便りも、見ないでポンと捨ててしまわないで、「もっと読んでみたい」「今月はうちの学校の さんのお勧めが載ってますよ」というものにならないかなと思った。</p>
図書館長	<p>現在図書館から学校へは情報をお送りし、「学校便り」「学年便り」等に載せていただいている。それとは逆に、学校からも図書館に情報をいただくということになるかと思う。学校と図書館の読書活動の情報交流になるいいアイデアなので、考えてみたいと思う。同時に、学校のそういう読書活動から、図書館にとってヒントになるものもあるのではないかと思うので、検討させていただく。</p>
本井委員	<p>話が変わるが、展示ホールの貸し付けの中で、地元の絵画とか書道のグループの発表が多い中、今年度は三条町並探検隊の「三条の舟」と、新潟県立歴史博物館の「GHQの一兵士が見た新潟」が異色的だった。地元の動きはあまり違和感がないが、県博の催しは非常に珍しい話ではないかと思う。こういう、今までの貸し付けとはちょっと毛色の違うものをやられて、何か影響というか、感じたことはあるか。</p>
図書館長	<p>経緯からご説明すると、GHQの諜報部門捜査官だった English という方が、1946年に新潟県に数ヵ月滞在された際、県内の写真をたくさん撮られた。その方は今もご健在だが、歳月が経ち、被写体の細かい情報がわからなくなってしまっている。そこで新潟県立歴史博物館に託し、県博では情報収集のための巡回展示を昨年度から始め、今年度は三条と上越にお声がかかったというもので、我々としても地域の記憶を皆さんから収集するという事で“三条の記憶”事業と重なる取り組みになるため、共催の形でやらせていただいた。結果として、残念ながら集まった情報は少なかつたようで、県博さんとしてはあまり収穫がなかったかもしれないが、しかし今回の事業は、地域史の掘り起こしの取り組みとしても、県博さんとの協働としても、貴重な機会になった。今後も県内他機関との交流の機会がまた得られれば良いと考えている。</p>
本井委員	<p>職員の皆さんの研修の場としても役に立ったのではないかという気がする。そういう機会がないと、求めてもすぐに種が転がってくるわけではないと思う。これを一つのいい例として、今後もし別の内容でやれるようなら、そういう連携の仕方をもっと</p>

	<p>広げてもらえるといいと思う。ただし、こういう事業ばかり一生懸命やっていると、本来の収書等の時間が食われてしまう恐れもあるので、その辺のバランスを上手にやっていく必要がある。</p>
小出委員	<p>利用状況を見させていただいて、昨年の3月はだいが震災の影響があったようだが、その後はなかったようなので、皆さん順調に利用されているのだろうと思う。ただ、漢学の里分室は極端に少ないが、これは何か影響があるのか。</p>
図書館長	<p>漢学の里分室がある諸橋轍次記念館は、立地的にも本来利用が少ないところで、加えて昨年は、夏の水害の影響もあった。実は私は12月まで記念館も兼務していたので目の当たりにしたのだが、やはり水害後は、決まった方以外の来室は減ったと思う。また、11月終わりからは展示室をリニューアル工事で閉鎖しており、その影響もあると思うし、冬に入ってからは大雪もあった。4月の後半にはリニューアルオープンし、入館が再開するので、図書室の利用も期待しているところである。</p>
宮島委員長	<p>大体出尽くしただろうか。今年度の利用状況についてはこれぐらいにして、次に平成24年度の事業計画について説明をお願いしたい。</p>
図書館長	<p>(資料 No.2 に基づき説明)</p>
宮島委員長	<p>24年度の事業計画について、どこからでもご質問・ご意見を願います。 16ページの事業計画の中の、子どもの読書活動推進事業について、毎月23日の「さんじょう親子読書の日」をととても大事にし、強調してやっていたように思う。「子ども読書相談窓口」をカウンターに設置し、その日は特に強くアピールするという話だったが、1年近くやってこられて、「読書相談」の内容とか実績について、お聞かせいただけたらと思う。対象は子どもなのか、子どもを連れた親御さんなのか。例えば「本を読まないんですが」とか、そういう相談なのか。そうではなくて、「こういう本を読みたいんだけど、どこにあるんですか」といったことなのか。どんなふうにこれが開設され、どんな相談があって、どういように対応したかといったことを、ちょっとお聞かせいただきたい。</p>
村山副責任者	<p>読書相談は、子どもと大人どちらも、相談があれば対応している。大人だと、何年生の子ども向けにどういよう本を読んだらいいか、という問い合わせが多いし、子どもはやはり、「この本はどこですか」といったように場所を聞かれることが多かった。子どもの場合、「窓口」を気にしないで聞いてくることも多いので、「窓口」の意味は特にないのかなと思う。</p>
宮島委員長	<p>私の個人的な感想なのだが、「読書相談」とか「窓口」って堅くないかなと思う。図書館としては、「気軽に聞いてください」「何でも聞いてください」というつもりでいるだろうが、相談というほどの相談はさほどないような気がするし、「教育相談」のような気がしてしまう。「気軽に声をかけてください。楽しく本を読みましようよ」といよう働きかけであるなら、もっと親しみやすい窓口であってほしいと感じる。「ここが相談を受ける場所です」「ここでなければ聞きません」といことはないので、その辺を少し工夫していただけたらと思う。以前にある方と「被り物をして、旗を持ってあちこち練り歩くぐらいのアピールが欲しいよね」と話したことがある。そこまでとは言わないけれども、23日に「さんじょう親子読書の日」ですよ</p>

	<p>ということは、のぼりをつくっていただいて一步前進したと思うものの、例えば市役所にものぼりを立ててもらおうとか、公共施設などのあちこちでのぼりを立ててもらおうのはどうか。図書館に来る人は知っているけど、他の人にも知ってほしいわけなので、それをもう少しアピールしてほしいと思っている。それが一つと、読書相談であれば、例えばウサギの耳を被って、「私に何でも聞いてね」みたいな、そういう親しみやすさで声をかけてもらい、「一緒に本を楽しみましょう」というアピールをぜひ行ってほしい。真面目に一生懸命やったださっている図書館の方に対して申しわけないのだが、もう一つ下りて、くだけてもらおう。23日には特別そういうことをする、ぐらいの面白味があってもいいかなと思った。</p>
図書館長	<p>いいご意見をいただきありがたい。市役所にのぼりを立てていただけるかは今後相談していくし、市の職員さんを含めもっと皆さんに認知していただく必要があるので、努力していきたい。被り物はなかなか勇気が要るが、うちの職員はおとなしい者が多いので、チャレンジは必要かと思っている。子どもたちへのアピールが第一なので、それも努力したい。先にご指摘いただいた言葉の堅さについては、「子ども読書相談窓口」という名称は引き継いだものである。なかなか利用が伸びないためカウンターから飛び出させて1年間取り組んできたが、まだなかなかで、「窓口」という名前にはなっているが、子どもさんや親子の方々からもっと気楽に声をかけていただける、そのきっかけになる言葉のほうがいいのか、ご指摘のとおりだなと思う。その点を新年度相談していきたいと思う。</p>
文化振興係長	<p>一つ補足だが、「三条市子ども読書活動推進計画」の中に、「相談窓口を設置する」という文言があり、それがわかるように設置しましょうということで、そのままの名前で設置した。長いカウンターの一番端の子ども用のところに看板を立て、それをそのまま引き継いでいただいた。そして現在は、23日だけは子ども読書コーナーに設置する、のぼりを立てるといった工夫や、桃の木を作って質問があると貼り、「桃の実がどンドンいっぱいになるんだよ」というような工夫もしていただいている。しかし、なかなか認知度が低いので、名前やPRの仕方の工夫については、今後も考えさせていただきたいと思う。確かに堅いかもしれない。</p>
宮島委員長	<p>努力してやってこられた経緯はよくわかった。</p>
捧副委員長	<p>カウンターの端というのは、やはり小さいお子さんを連れのお母さんは行きにくい。子ども読書コーナーには靴を脱いで入っているし、自分の子どもから目を離して聞きに行くというのはちょっと無理がある。子どもを目の届くところに置きながらいろいろな本を選んでいるので、23日だけでも、そういう被り物をするのならしていただいて、お子さんのいらっしゃるところにどなたか1人、本の返本をしながらでも何でもいいので居ていただけると、声をかけやすくなるのではないかなと思う。黒いユニフォームも、その日だけでもちょっとかわいいエプロンをするとか。強烈な被り物だと泣く子どももいるので、ほどほどの感じのものがいいと思うのだが、声をかけやすくしていただくとありがたいと思う。あと、ブックスタートとも絡むが、授乳室を2階に作ってあるけれども、ほとんど利用がないのではないかなと思う。何度か「PRを」ということで話も出ているが、せっかく中におもちゃとか貸出用の本なども置いてあるので、私はいっそのこと1階に下ろしていただきたいと思っているのだが、授</p>

	乳室の利用についてもお願いしたい。また、布絵本が幾つか完成していると思うが、それがあることをご存じない方も多いと思う。毎日置いておくと、破損とかの問題も起こると思うので、23日だけ子どもコーナーに展示するとかしてはどうか。大型絵本も、別にボランティアだけのものではないので、「こんなものがありますよ」と、本の題名だけではわかりにくいので、表紙の写真を付けたリストを置いていただくと、PRできるのではないかと思う。
名島委員	「さんじょう親子読書の日」とついているのだから、読書相談だけでなく、毎月お話をするのはどうなのか。集まった子どもたちにもいろいろ参加してもらい、楽しくやって、「親子読書の日」を一緒に広げていけたらどうかと思った。
宮島委員長	読書意欲を高める事業の展開の一つとして、「23日は必ず何か楽しいことがある」というふうにしてもいいのかなと思った。
図書館長	現状でも、平日はお子さんがいらっしやらないのでやっていないが、23日が土・日・祝に重なった日は、お話し会などのイベントを行っている。
名島委員	「親子読書の日」が、「何か楽しいこと」と一緒に、皆さんに認知されていったらいいのではないかと思った。
宮島委員長	「23日に図書館に行くと楽しい」というように、何か結びつくといい。先ほどのご意見の、布絵本の展示もいいなと思って聞いていた。
図書館長	布絵本については、私どももせっかくいいものを、ボランティアの皆さんのご協力で持っているわけなのに、それをさらに有効活用していく、皆さんにご紹介していくところが、まだちょっと足りないと思う。今日は貴重なアイデアをたくさんいただけたので、ぜひ考えていきたいと思う。
本井委員	一番最後の、22ページの表についてはどうか。
図書館長	協議題(3)「その他」のところでご説明する予定である。
小出委員	実績を見ると、「お話の出前」を何回もされているようだが、これは保育所とか小学校から「いつ来てください」と言われるのか。出かけていくのは職員の方が、ボランティアの方が。
図書館長	学校や保育所へは、主に職員。障がい者施設とか高齢者施設はボランティアが中心で、図書館職員も参加するというパターンが現状である。学校等の出前にも、ボランティアにもっと参加いただけるようにしていきたいと思っている。
小出委員	いっぱい要望があるようなので、せいぜいボランティアの人も活用して、もっとアピールするのもいいかと思う。
宮島委員長	他にないか。それでは「その他」に移り、先ほどの蔵書点検の報告をお願いします。
菊崎業務責任者	(資料 No.3 に基づき説明)
本井委員	こういう事業をやっていると、これは宿命で、不明資料がなくなるということはある得ないだろうと思うが、ただ、「何で不明になるのか」という分析を、もう少しシビアにやってもいいのではないかと思う。必ずしも盗まれているというだけでなく、内部でなくなっている、うっかりミスのなちょっとした間違いで点検にかからなかった、ということもよくある。果たしてどこにその要因が一番あるのか、もう少し分析された説明があるといいなと思う。

図書館長	「今年度は昨年度より減ったからそれでいい」ということではもちろんないので、ご指摘いただいたとおり、内部の管理の問題で不明になってしまったものもあるのかどうか、まだ分析できていなかった点があるかと思う。
渡邊委員	昨年も思ったことだが、嵐南分室の不明数が、蔵書数との割合で考えると、非常に多い気がする。2年間見ているが、蔵書数に対して1%弱ある。これは何か原因があるのではないか。カウントミスとかそういうことならいいが、原因の究明がやはりなされるべきではないかと思った。
小出委員	職員の人がないのではないか。
文化振興係長	職員が常に図書室にいるのではなく、隣の事務室にいて、貸出とか用があるときに職員に声をかけてもらうという形。普段は無人なので、それが一因ということがあるかと思う。
小出委員	借りる時は、ノートか何かに書くのか。
文化振興係長	借りる時は職員が来て、バーコードを読んで機械の手続きをする。普段は誰もいないため、自由に見られ、黙って借りていっても気がつかない状況である。
小出委員	職員の人に声をかけて借りるということがわからない人もいるのかもしれない。昔の感覚だとノートとかがあって、名前を書いて借りていくという人もいたかもしれないが、でもノートもないと、「書くものがないが、まあいいか。また来た時に返そう」と、そんなふうになるのかもと思った。
文化振興係長	「声をかけてください」と、もう少しきちんとPRしてはどうか。
図書館長	この辺は、公民館とよく相談して、対策を取りたいと思う。
名島委員	不明資料ではなく、除籍は年間どのくらいあるのか。
竹内副責任者	正式な数字が今手元にないが、2月までに12,000冊くらいしている。
名島委員	事業報告の中で、除籍資料を一般の人に提供するというのがあった。去年はどのくらい提供したのか。
文化振興係長	今年度の1回目の資料に、22年度の蔵書数・除籍数の一覧が出ているが、それによると年間の除籍数は、昨年の場合5,018冊。昨年は受け入れが22,000冊と数が多かったため、今年は去年より多く除籍されているのだと思う。年度が変わると、またこういう統計を出し、お知らせできると思う。
名島委員	リサイクルの数はどうか。
文化振興係長	リサイクルの数も、連動して多くなっていく。
捧副委員長	また嵐南公民館分室について申しわけないが、図書館以外の用事で公民館を利用している方も、図書室にスッと入っていける状況にある。返却資料は、声をかけずに所定の場所に置いてくればいいのだが、それもわからない方がいらっしゃるのかなと思う。あと、ちょっと申し上げにくいですが、やはり図書館の方がやっているのとは違うので、対応がちょっとというところがある。ここ数年は「入りにくいよね」という声を何人かの方から聞く。その辺をきちんとしていただけると借りやすくなるのかなと思う。利用者数が減っているようだが、図書室だけでなく公民館自体もちょっと入りにくいかな、という声もたまに聞いたりする。時間が遅くなると、職員の方ではなくシルバーさんがいたりもするし、「何で借りるんだ」「面倒くせえ」みたいな感じの方

	<p>がいるということも、実は今日の午前中に聞いてきた。貸出の手順があまりよくわかっていらっしやらない方もいるのではないか。「悪いけど、これ自分にはできないから、別の日に来てくれや」とか、「申しわけないけど本館へ行ってくれや」と言われたとか、そういう声も聞く。1回そういうことがあるとやはり、ではこちらへ行くのはやめて本館へ行こう、という話になると思う。その辺をもうちょっと徹底していただけると、利用率が上がるのではないかと思った。</p>
生涯学習課長 補佐	<p>今ご指摘があった点については、嵐南公民館の職員が図書館業務もやっているの で、接遇の基本的な点、おもてなしの心を持って気持ち良く図書館分室を利用いただ けるよう、生涯学習課のほうから指導してまいりたいと思うので、ご理解をよろしく お願いしたい。</p>
捧副委員長	<p>あまり強くは言わないでほしい。以前は10年以上ずっと同じ職員がいて、その方 は手際良くパツパツとこなしてくださったので、何年か前に担当の方が代わられて、 不慣れなところがあるのだと思う。十何年勤めた方と来たばかりの方では、対応に差 が出るのは当然なので、あまり厳しいことはおっしゃらないでいただきたい。</p>
宮島委員長	<p>お気遣いありがたい。利用者の貴重な意見なので、よろしくお願いしたい。 長い時間、いろいろ検討してきたが、これを言い忘れたとか、もう一つ聞きたかつ たということがあれば、どこからでも。</p>
捧副委員長	<p>では要望をもう1つ。小型の除雪機をぜひ各施設に1つずつ置いてあげてほしい。 職員の方が「肩が痛い」と言っているし、公民館等では人数の足りない中、一日中除 雪作業をしている姿を目にする。ぜひ除雪機を1台ずつ置いていただければと思う。</p>
宮島委員長	<p>他にいかがか。出尽くしたようなので、それではこれをもって、平成23年度第3 回図書館協議会を終了いたしたいと思う。</p>
図書館長	<p>ありがとうございます。では最後に事務局からですが、実は名島委員さんご事 情で、委員を辞退したいというお申し出がありました。今日は無理をお願いしてご出 席いただき、ありがとうございます。今回で最後のご出席になるので、ご報告させ ていただきます。よろしければ一言お願いいたします。</p>
名島委員	<p>いろいろと皆さんにお世話になりました。任期を1年残して恐縮ですが、事情があ って辞退させていただくことになりました。次の方もとても意欲的な方なので、よろ しく申し上げます。本当にありがとうございました。</p>
一同	<p>ありがとうございました。</p>
図書館長	<p>今後ともボランティアとしてのご助力や個人としてのご利用等、よろしくお願いい たします。</p>